

# 教育研究業績書

2020年10月27日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：森下 和恵

研究分野	研究内容のキーワード
在宅看護	訪問看護実践の可視化
学位	最終学歴
修士	武庫川女子大学大学院看護学研究科修士課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 訪問看護認定看護師	2012年～現在	
2. 看護師	2004年～現在	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
<b>2 学位論文</b>				
1. 熟練訪問看護師が療養者と関係を作るために実施している初回訪問時の言動とその意図	単	2018年3月	武庫川女子大学大学院看護学研究科	熟練訪問看護師が初回訪問において療養者との関係を作るために実施している言動とその意図を明らかにすることを目的に、訪問看護師へ面接調査を行った。結果、熟練訪問看護師が初回訪問で関係を作るために実施している言動と意図について、①自宅に到着するまでの言動と意図は【療養者の状況を知るために療養者の全体像を捉える】など4カテゴリー、②自宅に到着し療養者に対面するまでの言動と意図は【療養者の生活状況を知るために暮らしぶりを捉える】など3カテゴリー、③療養者に対面した時の言動と意図は【療養者の健康状態から心身の特徴を捉える】など7カテゴリーであった。熟練訪問看護師はこの3つの時期で情報収集を行い、訪問看護サービスの開始に向かって、療養者のニーズに合った関わりができるように準備をしていた。そして、まずは継続して訪問することができる関係を作り、訪問看護サービスの開始につながるような関係を作っていたと考えられた。
<b>3 学術論文</b>				
1. 訪問看護認定看護師が療養者と関係を築くために実施している初回訪問時の言動とその意図（修士論文を加筆修正）	共	2020年	日本在宅看護学会誌, 9, 1, 32-44	熟練訪問看護師が初回訪問において療養者との関係を築くために実施している言動とその意図を明らかにすることを目的に、療養者と関係を築くため言動とその意図について面接調査を行った。熟練訪問看護師が初回訪問で関係を築くために実施している言動と意図は、①自宅に到着するまでが療養者の状況を知るために療養者の全体像を捉える＞など4カテゴリー、②自宅に到着し療養者に対面するまでが療養者の生活状況を知るために暮らしぶりを捉える＞など3カテゴリー、③療養者に対面した時が療養者の健康状態から心身の特徴を捉える＞など7カテゴリーが抽出された。熟練訪問看護師は3時期で療養者の暮らしぶりや心身の特徴を捉え、療養者のニーズ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
2. 訪問看護師が看護実践の中で感じている“やりがい”	共	2020年	日本在宅看護学会誌, 9, 1, 53-64	<p>にあった関わりができるようにニーズを模索していた。そして、療養者と人間関係を築くためだけでなく、訪問看護サービスの開始、契約に結びつなげるための言動と意図があったと考えられた。 本人担当部分：共同研究につき、抽出不可能 共同発表者：森下和恵、新田紀枝、久山かおる</p> <p>在宅療養患者を支援する訪問看護師の看護実践から、訪問看護師が感じている“やりがい”を明らかにすることを目的に、訪問看護師、訪問看護認定看護師に面接調査を行った。結果、やりがい”を感じると語った内容は「患者・家族との距離が近く、教えてもらうことが多い」「看護師が主体的に考え行動できる」「患者・家族と対等で、一緒に頑張れる」「支援方法によって患者・家族の反応を直に感じられる」「患者の希望に応じてスペシャルメニューで支援ができる」などがあった。訪問看護は、患者の個性に応じた支援を自由に考え、患者の意見を聞きながらケアできる。そして患者・家族と対等に話し合い実践する中で“やりがい”を見出していた。訪問看護は患者の個別性を大切に看護の専門性を発揮しやすい環境であると考えられる。 本人担当部分：共同研究につき、抽出不可能 共同発表者：森下和恵、長谷康子、多留ちえみ</p>
<b>その他</b>				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 設定事例を使用した熟練訪問看護師による初回訪問時の限度とその意図	共	2019年9月	第50回日本看護学会-在宅看護-学術集会	<p>熟練訪問看護師が初回訪問において療養者と関係を築くために行っている言動とその意図を初回訪問の設定事例を提示し、設定事例から明らかにすることを目的に実施した。その結果、①自宅に到着するまでは《療養者の全体像を捉えるために事前に情報収集をする》など3カテゴリ、②自宅に到着し療養者に対面するまでは《療養者の状況を知るために室内から現状を捉える》など3カテゴリ、③療養者に対面した時は《療養者の生活状況を知るために言動から心身の特徴を捉える》など7カテゴリが抽出された。熟練訪問看護師は、②の時期では設定事例の家族介護者に向けて、初回訪問から家族も訪問看護の対象であることを意識した行動がみられた。また、③の時期では住居図を見て部屋に置いてあるものに関心を寄せ、好意的な態度を示すような言動がみられた。 本人担当部分：共同研究につき、抽出不可能 共同発表者：森下和恵、新田紀枝、久山かおる</p>
2. 自ら療養行動ができない患者への行動変化を促す訪問看護師の役割	単	2015年11月	第5回日本在宅看護学会学術集会	<p>自ら療養行動ができない患者にどのように関わると行動できるようになるのか、訪問している患者との関わりを振り返り考察したことを報告する。実践経過より、患者の今後予測される状況を実感できるよう話しをすることで危機感につながり、今の生活に合わせてお酒とたばこの量を看護師と共に決めたことで行動に移そうと生活行動の変化が見られた。生活行動の変化を促すためには、患者に生活変化をしていくよう気づきを促し、必要性が実感できるよう今の生活と比べて話を進めていくこと、生活の中で療養を続ける困難さを理解しながら行動の変化を支える姿勢が大切であると考えられる。 発表者：森下和恵</p>
3. 心不全症状を呈するデュシェンヌ型筋ジストロフィー患者への支援-在宅療養における介護者への支援を考える-	共	2012年11月	第2回日本在宅看護学会学術集会	<p>デュシェンヌ型筋ジストロフィーの介護者に対して行った支援について考察し報告する。A氏の移乗時に、痰はないがA氏の気が済むまで吸引を行っているなど、母親の負担とA氏の病状悪化のリスクと不安が大きいことが分かった。その状況から痰が貯留しているのではなく、心臓に負担がかかっていることを母親に分かりやすく説明し、その評価として脈拍を測定するように伝えた。その結果、呼吸器の離脱時間を短くする意識や吸引時間を短縮する、発熱時はすぐに連絡するなど、母親の心負荷予防への意識が高まったことがうかがえた。進行性の難病と共に生きる家族を在宅で介護する家族への支援については、新たな病状の変化に対応できるよう、病状の説明と対応方法を具体的に提示し、介護者の良きパートナーとしての訪問看護師の重要性を認識した事例であった。 本人担当部分：共同事例検討につき、抽出不可能 共同発表者：森山薫、森下和恵、多留ちえみ</p>
<b>3. 総説</b>				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 訪問看護師の視覚メディアによる初回訪問での療養者と関係を築くための言動とその意図	共	2019年9月	公益財団法人 大同生命厚生事業団 2019年度大同生命厚生事業「地域保健福祉研究助成」	
2. 熟練訪問看護師が療養者と関係を築くために実施している初回訪問時の言動とその意図		2016年	公益社団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 2016年度（後期）一般公募「在宅医療研究への助成」	

学会及び社会における活動等

年月日	事項